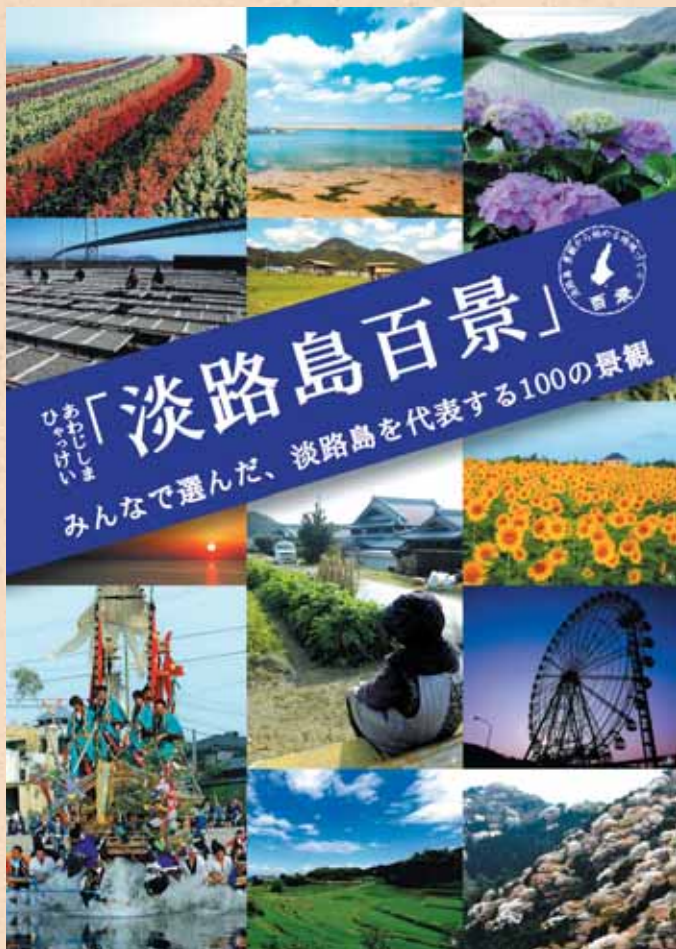




俳句で詠む
淡路島百景





題 字／大河内暁水 書家 日展会友
 表紙写真／慶野松原 あわじ花さじき 淡路島たまねぎ 洲本城
 淡路人形座 五斗長垣内遺跡 鳴門海峡

「俳句で詠む淡路島百景」の発刊を祝して

兵庫県知事

井戸敏三



淡路島は、わが国最古の歴史書『古事記』の冒頭を飾る「国生み神話」の中で最初に生まれたはじまりの島とされています。また、古より朝廷に食材を献上してきたことから、『万葉集』の中で「御食国」とも詠われています。

先人がつくり、育んできた淡路島のもつ自然と人との営みは、淡路島の風土、文化、景観をつくってきました。これを未来へと受け継いでいくことは、私たちの大きな使命です。平成二十五年二月、この淡路島のすばらしい自然や淡路島らしい景観を愛で、人々が感動する率直な気持ちを示すため、淡路島の拠点を百選び、「淡路島百景」として選定し、その優れた景観を島内外に発信しました。

一方、淡路島は、松尾芭蕉の高弟である服部風雪や、高浜虚子の一番弟子の岩木躑躅、東京市長を務めた永田青風をはじめ、著名な俳人を輩出しています。それならば、自然の美しさや日常の中に感動を詠みこむ俳句とともに百景を紹介することで、淡

路島のすばらしさをより一層伝えられるのではと、『俳句で詠む淡路島百景』『続 俳句で詠む淡路島百景』の二冊を発刊しました。今回、兵庫県政百五十周年、神戸淡路鳴門自動車道全通二十周年にあわせて、島内外で好評をいただいているこの二冊をまとめた『俳句で詠む淡路島百景』を発刊することにしました。この冊子を手にした多くの皆様が淡路島の魅力に触れ、淡路島を訪れていただくこと、また、島民の皆様がふるさと淡路のすばらしさを見つめなおし、愛着を深める機会となることを願っています。

最後に、本冊子の発刊にご尽力いただいた皆様に、心から感謝します。

十六夜の海の煌めく島明かし

平成三十年七月

俳句で詠む淡路島百景

目次

| | |
|--------------------------------|----|
| 兵庫県知事 井戸敏三 発刊を祝して…………… | 1 |
| 淡路島百景、俳句で詠む淡路島百景とは…………… | 4 |
| 淡路島百景位置図…………… | 5 |
| 第1景 明石海峡と明石海峡大橋…………… | 6 |
| 第2景 江崎灯台…………… | 7 |
| 第3景 松帆の浦…………… | 7 |
| 第4景 淡路島のイカナゴ漁…………… | 8 |
| 第5景 絵島…………… | 8 |
| 第6景 大和島…………… | 9 |
| 第7景 大阪湾を望む岩屋中学校…………… | 9 |
| 第8景 兵庫県立淡路島公園と淡路ハイウェイオアシス…………… | 10 |
| 第9景 石屋神社の春祭り…………… | 10 |
| 第10景 淡路夢舞台と国営明石海峡公園…………… | 11 |
| 第11景 兵庫県立淡路景観園芸学校…………… | 11 |
| 第12景 淡路冒険の森…………… | 12 |
| 第13景 兵庫県立あわじ花さじき…………… | 12 |
| 第14景 東浦バスターミナル…………… | 13 |
| 第15景 浦県民サンビーチ…………… | 13 |

| | |
|-----------------------------|----|
| 第16景 野島断層保存北淡震災記念公園…………… | 14 |
| 第17景 浅野公園…………… | 14 |
| 第18景 播磨灘をのぞむ高台に建つ北淡中学校…………… | 15 |
| 第19景 旧原家住宅(北淡歴史民俗資料館)…………… | 15 |
| 第20景 石田地区の棚田…………… | 16 |
| 第21景 生田地区の棚田…………… | 16 |
| 第22景 育波漁港…………… | 17 |
| 第23景 室津八幡神社…………… | 17 |
| 第24景 五斗長垣内遺跡…………… | 18 |
| 第25景 常隆寺とスタジアムアカガシ群落…………… | 18 |
| 第26景 大阪湾を望む高台の東浦中学校…………… | 19 |
| コラム1…………… | 19 |
| 人形芝居の源流―淡路人形浄瑠璃の魅力…………… | 20 |
| 第27景 事代主神社水かけ祭り…………… | 20 |
| 第28景 飯屋漁港…………… | 21 |
| 第29景 パルシェ香りの館…………… | 21 |
| 第30景 東山寺…………… | 22 |
| 第31景 東山寺山系の山桜…………… | 22 |

| | |
|-----------------------------|----|
| 第32景 御井の清水…………… | 23 |
| 第33景 円城寺…………… | 23 |
| 第34景 あわじ花の歳時記園…………… | 24 |
| 第35景 淡路七福神八淨寺…………… | 24 |
| 第36景 多賀の浜…………… | 25 |
| 第37景 兵庫県立佐野運動公園…………… | 25 |
| 第38景 伊弉諾神宮と夫婦クス…………… | 26 |
| 第39景 淡路文化会館水仙の丘…………… | 26 |
| 第40景 淡路市立香りの公園…………… | 27 |
| 第41景 番城が丘に甦る津名高等学校…………… | 27 |
| 第42景 静の里公園…………… | 28 |
| 第43景 メガワットソーラー発電施設…………… | 28 |
| 第44景 しづかホール…………… | 29 |
| 第45景 伊勢の森神社梯子獅子…………… | 29 |
| 第46景 淡路ワールドパーク ONOKORO…………… | 30 |
| 第47景 大町地区の田園景観…………… | 30 |
| 第48景 岩上神社を中心とした巨石信仰…………… | 31 |
| コラム2…………… | 31 |
| 国生みの神話と御食国…………… | 32 |
| 第49景 播磨灘に落ち込む淡路西浦の風景…………… | 32 |
| 第50景 塩田地区の町並み…………… | 32 |

| | | |
|------|----------------------|----|
| 第51景 | 下司大名行列 | 33 |
| 第52景 | 高倉山山頂からの眺望 | |
| 第53景 | 淡路七福神 宝生寺 | 34 |
| 第54景 | 高田屋嘉兵衛公園 | |
| 第55景 | 菜の花エコプロジェクト | 35 |
| 第56景 | サンセットラインから望む夕日 | |
| 第57景 | 淡路富士 先山 | 36 |
| 第58景 | 先山千光寺とスタジイ林 | |
| 第59景 | 名号石のみみじ | 37 |
| 第60景 | 洲本実業高校の桜 | |
| 第61景 | 旧紡績工場のレンガ倉庫 | 38 |
| 第62景 | 島内最大規模の淡路島まつり | |
| 第63景 | 厳島神社 | 39 |
| 第64景 | 大浜海岸 | |
| 第65景 | 洲本城址 | 40 |
| 第66景 | 洲本城址から眺める市街地と洲本港 | |
| 第67景 | 三熊山 | 41 |
| 第68景 | 曲田山浄水場の桜 | |
| 第69景 | 大野地区から望む淡路富士 先山とひまわり | 42 |
| 第70景 | 五色浜 | |
| 第71景 | 成ヶ島 | 43 |
| 第72景 | 生石公園 | |

| | | |
|------|-----------------------------|----|
| 第73景 | 立川水仙郷と太平洋の遠望 | 44 |
| 第74景 | 鮎屋の滝と源氏ホテル | |
| コラム3 | 淡路島に生まれ全国に名を馳せた俳人 淡路島の句碑 | 45 |
| 第75景 | 玉ネギ小屋の風景 | 46 |
| 第76景 | 広田梅林 | 48 |
| 第77景 | 恋の森 | 49 |
| 第78景 | 淡路ふれあい公園とサンライズ淡路 | |
| 第79景 | 慶野松原 | 50 |
| 第80景 | おのころ島神社と芦原国 | |
| 第81景 | 淡路島牧場 | 51 |
| 第82景 | 淡路ファームパーク・イングランドの丘 | |
| 第83景 | 淡路だんじり祭 | 52 |
| 第84景 | 淳仁天皇陵 | |
| 第85景 | 八木馬廻地区のしだれ梅 | 53 |
| 第86景 | 上田池ダム石積み式堤体 | |
| 第87景 | 論鶴羽山、論鶴羽神社と論鶴羽ダム | 54 |
| 第88景 | 灘来川地区から望む沼島と海岸線 | |
| 第89景 | 灘黒岩水仙郷 | 55 |
| 第90景 | うずしおの郷 | |
| 第91景 | 淡路人形浄瑠璃館(人形座) | 56 |

| | | |
|-----------------|--|----|
| 第92景 | ちりめんロード | |
| 第93景 | 福良湾、煙島、大園島の展望 | 57 |
| 第94景 | 大鳴門橋と鳴門海峡の展望 | |
| 第95景 | 淡路じゃのひれフィッシングパーク | 58 |
| 第96景 | 若人の広場 | |
| 第97景 | 吹上浜 | 59 |
| 第98景 | 阿万海水浴場とウミホテル | |
| 第99景 | 沼島地区の自然と一体となった町並み | 60 |
| 第100景 | 上立神岩と裏海岸 | |
| コラム4 | 旅は宝探し | 61 |
| 特別投句 | 井戸敏三 兵庫県知事 稲畑汀子 ホトトギス名誉主宰 大久保白村 ホトトギス同人 鈴木貞雄 若葉主宰 成川雅夫 岬主宰 安原 葉 ホトトギス同人会長 水田むつみ 田鶴主宰・ホトトギス同人 浜田知昭 兵庫県議会議員 選者投句 | 62 |
| 優秀作品(一般の部・学生の部) | | 70 |
| 淡路島 俳句の言葉 | | 72 |
| おわりに | | 78 |
| 編集後記 | | 79 |
| | | 80 |

淡路島百景、俳句で詠む淡路島百景とは

「淡路島百景」とは、生活の中で守り育てていきたいと感じる、また、淡路島らしいと感じる100の景観です。兵庫県淡路県民局では、淡路島の景観づくり運動の一環として、一般投票を行い、その結果をもとに以下の「淡路島百景」を選定(平成25年2月)しました。

「俳句で詠む淡路島百景」は、淡路島が著名な俳人を輩出し、俳句が盛んな地であることから、これらの景観の魅力を保句で発信するために、平成26年、29年の2回にわたり俳句を公募し、編纂したものです。

1. 明石海峡と明石海峡大橋
2. 江崎灯台
3. 松帆の浦
4. 淡路島のイカナゴ漁
5. 絵島
6. 大和島
7. 大阪湾を望む岩屋中学校
8. 兵庫県立淡路島公園と淡路ハイウェイオアシス
9. 石屋神社の春祭り
10. 淡路夢舞台と国営明石海峡公園
11. 兵庫県立淡路景観園芸学校
12. 淡路冒険の森
13. 兵庫県立あわじ花さじき
14. 東浦バスターミナル
15. 浦県民サンビーチ
16. 野島断層保存北淡震災記念公園
17. 浅野公園
18. 播磨灘をのぞむ高台に建つ北淡中学校
19. 旧原家住宅(北淡歴史民俗資料館)
20. 石田地区の棚田
21. 生田地区の棚田
22. 育波漁港
23. 室津八幡神社
24. 五斗長垣内遺跡
25. 常隆寺とスタジイ-アカガン群落
26. 大阪湾を望む高台の東浦中学校
27. 事代主神社 水かけ祭り
28. 仮屋漁港
29. バルンシェ香りの館
30. 東山寺
31. 東山寺山系の山桜
32. 御井の清水
33. 円城寺
34. あわじ花の歳時記園
35. 淡路七福神 八淨寺
36. 多賀の浜
37. 兵庫県立佐野運動公園
38. 伊弉諾神宮と夫婦クス
39. 淡路文化会館 水仙の丘
40. 淡路市立香りの公園
41. 番城が丘に甦る津名高等学校
42. 静の里公園
43. メガワットソーラー発電施設
44. じづかホール
45. 伊勢の森神社梯子獅子
46. 淡路ワールドパークONOKORO
47. 大町地区の田園景観
48. 岩上神社を中心とした巨石信仰
49. 播磨灘に落ち込む淡路西浦の風景
50. 塩田地区の町並み
51. 下司大名行列
52. 高倉山山頂からの眺望
53. 淡路七福神 宝生寺
54. 高田屋嘉兵衛公園
55. 菜の花エコプロジェクト
56. サンセットラインから望む夕日
57. 淡路富士・先山
58. 先山千光寺とスタジイ林
59. 名号石のもみじ
60. 洲本実業高校の桜
61. 旧紡績工場のレンガ倉庫
62. 島内最大規模の淡路島まつり
63. 厳島神社
64. 大浜海岸
65. 洲本城址
66. 洲本城址から眺める市街地と洲本港
67. 三熊山
68. 曲田山浄水場の桜
69. 大野地区から望む淡路富士・先山とひまわり
70. 五色浜
71. 成ヶ島
72. 生石公園
73. 立川水仙郷と太平洋の遠望
74. 鮎尾の滝と源氏ホテル
75. 玉ネギ小屋の風景
76. 広田梅林
77. 恋の森
78. 淡路ふれあい公園とサンライズ淡路
79. 慶野松原
80. おのころ島神社と芦原国
81. 淡路島牧場
82. 淡路ファームパーク・イングランドの丘
83. 淡路だんじり祭
84. 淳仁天皇陵
85. 八木馬廻地区のしだれ梅
86. 上田池ダム石積み式堤体
87. 諭鶴羽山、諭鶴羽神社と諭鶴羽ダム
88. 灘来川地区から望む沼島と海岸線
89. 灘黒岩水仙郷
90. うずしおの郷
91. 淡路人形浄瑠璃館(人形座)
92. ちりめんロード
93. 福良湾、煙島、大園島の展望
94. 大鳴門橋と鳴門海峡の展望
95. 淡路じゃのむれフィッシングパーク
96. 若人の広場
97. 吹上浜
98. 阿万海水浴場とウミホテル
99. 沼島地区の自然と一体となった町並み
100. 上立神岩と裏海岸

淡路島百景位置図



淡路島百景……………01

明石海峡と明石海峡大橋

大橋を渡れば春の淡路島

東原正己 兵庫県洲本市

淡路島百景……………02

江崎灯台

秋晴の島の灯台鳶の笛

齊木富子 兵庫県神戸市兵庫区

選者講評 高田非路

澄み渡るウルトラマリンブルーの空。灯台の白亜。沓え沓えと響く鳶の笛。正に好天の播磨灘から明石海峡を連想させる。無人になって久しい江崎灯台を想わせて懐かしい。



景観解説 ● “埼”に立ち、無数の船舶を濤に導いた白い塔。その姿は、灯を落とした今も“威厳”という光を放っている。麓から急な坂を登れば、この「貫禄の景」を目にすることができる。

選者講評 稲畑汀子

これ迄淡路島へは船で海を渡らなければ訪うことの出来ない島であった。その島へ世界一長い橋、明石海峡大橋が架かった。簡単に往来が出来る。桜、菜の花、レンゲ等に象徴される明るい島の春。淡路島が近くなった喜び。

撮影／木村卓司(淡路市)



景観解説 ● 遠景はあくまで優雅で、吊り橋と海峡がお互いを引き立てあっている。本土と島、人と人を隔てた海峡を吊り橋でつないだ「交流の景」でもある。夜、橋は真珠を身に着ける。愛称パールブリッジ。

淡路島百景……………03

松帆の浦

海に出て海に沈む日島の春

辰巳葉流 石川県白山市

淡路島百景……………04

淡路島のイカナゴ漁

路地路地にくぎ煮煮る香や淡路島

富永政子 兵庫県淡路市

選者講評 大久保白村
作者は淡路島に生まれ育った方のような気がする。島の四季をよく御存知だからこそこの詠みぶりである。島の路地のいたるところからくぎ煮の匂いがしてくれば淡路島にも本格的な春が訪れるのである。

撮影／西橋 弘(神戸市)



景観解説 ●淡路の春は、イカナゴ漁で始まる。網を曳く漁船が海を割り、飛沫をあげ、沸立つイカナゴを求めて海鳥たちが饗宴を催す。人も船も鳥も勇み立ち、春が動いていく。

選者講評 安原 葉
古くから明石海峡を渡るための拠点として栄え、古歌にも多く詠まれてきた景勝地の松帆の浦を称え、おだやかな島の春の一日を見事に詠んだ句である。海に囲まれた淡路島の春の日のすばらしさが旅人の心をいやすのである。

撮影／木村卓司(淡路市)



景観解説 ●荒れる明石海峡を目の前にして、古人は、ここで風待ち、潮待ちをした。今人は、写真の背景に見える大橋でいとも簡単に渡っていく。「新旧の対比」の景と言える。

淡路島百景……………05

絵島

雲染めて絵島の松に今日の月

尾崎美佳
兵庫県淡路市

淡路島百景……………06

大和島

美女絵島藻刈り男の大和島

田尻洋子
兵庫県淡路市

選者講評 稲山忠利

歌舞伎にもなった江島生島の大奥の美女江島を絵島に、海藻を刈る漁夫を大和島に見立てて面白い句となった。藻刈りは歳時記では川藻を刈ることとあるが、ぐるりが海の淡路ではひじきや荒布を刈るのも藻刈りである。



景観解説 ●江戸期に編纂された“淡路国名所図絵”を見て、当時の人はこの地を訪ねる夢を見た。自然が刻んだ「巧まざる造作の魅力」は褪せることなく、今も旅行ガイドブックの一頁を飾っている。

選者講評 稲畑汀子

名月を見る場所を決めて楽しむ。必ずやどこでもいい訳であるが、美しい月を配すにふさわしい場所が欲しい。絵島の松を配して淡路島百景の一つに加わることで名月も一層輝きを加えることであろう。



景観解説 ●昼間には、風と波の浸食で砂岩層が露出し、微妙で美しい岩の模様を見ることが出来る。まばらな樹木が潮風に耐えて健気である。自然の踏み石のような岩が残り、まるで海の庭園の様である。

淡路島百景……………07

大阪湾を望む岩屋中学校

沖ひかり全校生徒夏服に

大星たかし 兵庫県淡路市

淡路島百景……………08

兵庫県立淡路島公園と淡路ハイウェイオアシス

観覧車より海峡の月見かな

広田祝世 兵庫県宝塚市

選者講評 正井良徳

淡路島公園とハイウェイオアシスからの眺めは絶景で、大橋を渡った旅人はまずそこに足を止める。観覧車の人となった作者の目に明石海峡の夕景が広がる。満月が昇りはじめ、ダイナミックな月見となった。雄大な景をとらえた一句。



景観解説 ●旅人たちのオン・オフの「転換の場」として、これ以上の場所はなかなか見当たらない。海の景・山の景・花の景、有り余る「景観資源」に出会うことができる。

選者講評 鈴木貞雄

岩屋中学校は大阪湾を望む高台に建っている。夏に入ると、全校生徒が一斉に夏服に着替える。その日の朝礼は、海の明るさと夏服の白さで眩しいくらいだ。「沖ひかり」に子どもたちの明るい未来が暗示されている。



景観解説 ●有名設計集団の手による建築物。校舎の内部空間は多分に個性的で、それが外部形状にまで及んでいる。生徒たちは、人間工学を駆使したこの環境の中で、「濃密な時間」を過ごし、巣立っていく。

淡路島百景……………09

石屋神社の春祭り

曳山あまに海女の乗りたる浦祭

鬼本英太郎 兵庫県神戸市須磨区

淡路島百景……………10

淡路夢舞台と国営明石海峡公園

不死鳥となりゆく三色堇かな

稲谷有記 兵庫県淡路市

選者講評 中谷のぶ

淡路花博の会場となった明石海峡公園には不死鳥のモニュメントが有り、そこに植えられてゆくパンジーを詠んだとの作者の説明がある。色とりどりのパンジーをエジプトの伝説的な霊鳥で不死永生の象徴である不死鳥と見立てた幻想的な詩情濃い句である。



景観解説 ● 辿る動線に沿って、間断なく“見もの”が仕掛けられている「夢の回遊空間」であり、訪問者を落胆させない「利用者満足空間」である。

選者講評 大星たかし

石屋神社の祭には、神輿とともにだんじりが出る。太鼓に合わせて各地の民謡を歌いながら華やかに町内を巡る。なお、「浦祭」は秋の季語であるが、この神社の祭は秋にも行われるので採択された。



景観解説 ● どんなに時代が巡っても、どんなに世の中が複雑になっても豊稷豊漁への人々の思いは変わらない。祭りは、流行にとられない「不易の景」である。

淡路島百景……………11

兵庫県立淡路景観園芸学校

花と土触れるこの手に春の風

佐藤 薫
兵庫県神戸市西区

淡路島百景……………12

淡路冒険の森

樹下涼し竹の階段竹の橋

平松文子
兵庫県淡路市

選者講評 稲畑汀子

淡路冒険の森と聞くだけでも胸が躍る。子供達ばかりではなく、若者たち、又人生長く生きて来た我々年代の者にも行ってみたい冒険の森である。竹で手作りの遊具は誰にでもやさしい楽しさを演出してくれるであろう。

撮影／長野日向子(洲本市)



景観解説 ●この森の設計コンセプトは、「ここは、自分の責任で自由に遊ぶ、自然いっぱいの冒険遊び場です。子どもも大人も 女も男も、障がいのある人もない人も、鳥の人も都会の人も、自分が自分らしくいられる冒険の森です」秀逸である。

選者講評 正井良徳

一年間の四季折々を通じて園芸を学んだ作者。知識だけでなく、実習作業を通して花と土に触れた感触をいつまでも覚えている手。花の香と土の臭い、春風の肌ざわりの心地良さも伝わってくる句。



景観解説 ●校舎は高地にあり、視界は広く遙か里山を望む絶好の視点場である。ここは知行一致の「現代の寺子屋」。先生と生徒が化学反応を燃す坩堝である。

淡路島百景……………13

兵庫県立あわじ花さじき

潮騒を遠くに風の花野かな

佐藤秀峰 神奈川県相模原市南区

淡路島百景……………14

東浦バスターミナル

仰ぎ見る偉人の像や若葉風

吉田碧舟 兵庫県淡路市

選者講評 大星たかし
道を隔てた植込みにいくつかの彫像が並んでいるが、この句の像は、淡路の発展にも貢献した三洋電機創始者井植歳男氏の立像である。「仰ぎ見る」に敬愛の念がこめられている。季語もこの情景にふさわしい。



景観解説 ● 旅の拠点是人と時の交差点。発つ人着く人。昨日の人今日の人明日の人。そうして時を刻み人々の思いを呑み込んで、島の景観は眩しく光統ける。

選者講評 成川雅夫
女郎花や藤袴などの秋の七草だけでなく、吾亦紅(われもこう)竜胆(りんどう)の咲いている花野である。約15ヘクタールという広大な花畑へは、大阪湾からの風が吹き渡り、潮騒が耳に届く。大景が爽やかに描けている。

撮影/酒井雅治(和歌山県)



景観解説 ● 棧敷席に座って、パノラマビューを楽しむ。花の裾(しとね)に寝転んで、雲の動きを追うもよし、夕べの「夢のつづき」をみるもよい。

淡路島百景……………15

浦県民サンビーチ

雲の湧く沖を目指して浮輪かな

岩倉美喜
兵庫県洲本市

選者講評 稲山忠利

大胆な表現で成功している句と思う。年頃の娘が浮輪にかきついて足をばたつかせたり、きっちり腰にはめて犬掻きでいっしんに泳いでいるのを見て、あれは入道雲の所まで行くつもりかと微笑み乍ら見ている作者。



景観解説 ●特徴は二つ。一つは突堤の形と構造。海浜流を制御し漂砂を捕獲し養浜する。もう一つは、ひよろりとした棕櫚の樹。景観にメリハリを与えている。「景観の立役者達」である。

淡路島百景……………16

野島断層保存北淡震災記念公園

夏草や地震な いの断層隠し得ず

西川朝夫
大阪府吹田市

選者講評 成川雅夫

丈は伸びに伸び遅く育った夏草が一面に茂っている。それでも大震災で生じた断層を隠し切っていないという。夏草を介して、烈しかった大地震とその災害を伝えている。



景観解説 ●景観は心の持ちようで変わる。楽しい記憶は景観を楽しいものに、悲しい体験は景観を悲しいものにする。ここは、安心と恐怖、日常と非日常、平穏と混乱の「シンボル空間」であり、自然の脅威への「シグナル空間」でもある。

淡路島百景……………17

浅野公園

清めらるる心地に浴ぶる滝飛沫

内田あさ子 兵庫県神戸市西区

淡路島百景……………18

播磨灘をのぞむ高台に建つ北淡中学校

花の丘はるか雲湧く播磨灘

片山紀子 兵庫県南あわじ市

選者講評 三根香南

花の丘と詠まれた北淡中学校は平成16年に北淡東と西中学校が統合し、新築された。今しも、校庭の桜は満開を迎えている。はるか雲湧く沖は子どもたちの洋々たる未来を象徴していて、それは淡路島の将来へも繋がっていく。



景観解説 ●淡路西浦。季には麗らで時には荒む海を眺めて少年少女は育つ。それは、「キラキラした風景の記憶」となって、ある日ある時突然に、君達の脳裏に甦るのだ。

選者講評 中谷のぶ

浅野公園と言えば高さ15メートル、紅葉の巨木に取り囲まれて清流を落とす不動滝が有名である。滝の前に立ち、悩みも苦しみも忘れ飛沫を浴びながら清々しい気持ちになりしばし佇む作者の姿を思い描き共鳴した。調べもよく格調高い秀吟である。



景観解説 ●ここは窪地。土堤の斜面と天端には桜樹とベンチと四阿、まるで「劇場」である。二基のすべり台は子供達の権利、公園は家族一緒に楽しむもの。

淡路島百景……………19

旧原家住宅（北淡歴史民俗資料館）

へつつひに残る匂ひや虫時雨

近藤 守 兵庫県南あわじ市

淡路島百景……………20

石田地区の棚田

国生みの島の棚田の稲架はの列び

宮下時雨 山梨県富士吉田市

選者講評 鈴木貞雄

国生み神話において、イザナギ・イザナミの二神が初めて生成した島が淡路島である。秋の収穫が終って、棚田に整然と並んだ稲架の列は、古代からの農耕の営みを彷彿とさせる。



景観解説 ● 季節や天候によって刻々と変化する「田園景観」の美しさが、人々を感動させる。棚田は、陰影による演出を好む国民性にピッタリと嵌っている。

選者講評 正井良徳

北淡歴史民俗資料館敷地内に移築された木造茅葺の古民家。三百年に渡って当家の隆盛を見続けてきた太い梁や柱、厨に残された数々の調度品が代々の暮らしを彷彿させる。嗅覚、聴覚も働かせて、かつての生活と時の流れを全身で受けとめた一句。



景観解説 ● 農の古民家は、商の古民家と比べて、ちと趣が異なる。どま・だいご・なんど・おくのま、そこかしこに土の匂いがする。飾らない「素朴という豪華の景」である。

淡路島百景……………21

生田地区の棚田

父祖の世の汗を受けつぐ千枚田

児玉百合子 兵庫県南あわじ市

淡路島百景……………22

育波漁港

夏潮の匂ひしたたる漁具を干す

浅見秀溪 埼玉県飯能市

選者講評 成川雅夫

何処の漁港でも見られる光景と言えるが、いかなご、ちりめんじゃこ等の漁が盛んな有数の漁港である。7、8月頃にはちりめん漁の最盛期で、干してある漁具に潮の匂いが芬々とするとは、夏の強い日を感じさせている。

撮影／桑名善鉄(淡路市)



景観解説 ● 縄文海進の際に、海食崖が形成され、その低地の波食台に発達した集落が育波である。「波が育てたまち」と言える。

選者講評 安原 葉

山あいの三つの集落から成る生田地区の棚田は、多くの人に親しまれている美しい景観である。代々の農家が汗水を流して維持してきた棚田は、今後も若い世代の人々によって維持されるだろう。その覚悟が詠まれている。

撮影／田村伊久男(淡路市)



景観解説 ● 生活の糧を得るために、限られた土地と傾斜を利用した先人の苦勞の結晶。文化的景観の代表である。恣意性のない「巧まざるデザイン」である。

淡路島百景……………23

室津八幡神社

隨身門漁港を嵌はむる小春かな

森三枝子 兵庫県淡路市

淡路島百景……………24

五斗長垣内遺跡

弥生期の赤き炉跡や虫時雨

泉栄子 兵庫県淡路市

選者講評 高田非路

弥生時代の土器は、弥生文化の指標とされ、東京本郷の貝塚を思わせるが、淡路島の遺跡にもその炉跡が見つかり、近辺に昼の虫の声を聞いたと言うのである。「や」の切字が隔たる時代を生かし得て見事である。



景観解説 ● 古代の鍛冶職人集団の住居と仕事場。不便なこの高地に何故？ 訪ねる人は謎解きを迫られる。あれこれと思いを巡らす「想像力刺激空間」である。

選者講評 大星たかし

清潔な境内から振り返ると、隨身門の向こうに小春風のおだやかな漁港が絵のように眺められる。町の中央におわす八幡神が、漁港とその沖の漁場を見守っておられる。地味であるが、情景の広がる一句である。



景観解説 ● 震災復興碑に刻まれた寄進者数の多さに驚かされる。八幡さんの求心力の高さが伺える。壇尻は地域の団結の象徴、担ぐ人たちの「誇りの景」である。

淡路島百景……………25

常隆寺とスタジイ・アカガシ群落

山寺に苔生す庭や百日紅さるすべり

大下恵美子 兵庫県淡路市

淡路島百景……………26

大阪湾を望む高台の東浦中学校

校庭の眼下は夏の茅渟ちぬの海

富永政子 兵庫県淡路市

選者講評 鈴木貞雄

東浦中学校は大阪湾を望む高台に建ており、眺望がすばらしい。特に、夏の海は輝くばかりだ。「大阪湾」と言わずに、古称の「茅渟の海」を使うことによって、歴史もまた表現された。



景観解説●人は人生の節々で、昔見た風景を思い浮かべる。それを「原風景」というのかもしれない。この学校の卒業生は、さぞ豊かな「原風景」を持つことになるであろう。

選者講評 正井良徳

山門を入り、本堂に向かう眼前に孔雀が翼を広げたようなみごとな百日紅が花を咲かせている。足元には一面の苔。緑と赤と紺青と、色鮮やかな景を詠んだ句。



景観解説●「気品」を感じる。それは、樹齢を重ねた背後の緑、さりげない佇まいの本堂、設え感を排した径と石段に因っている。それは更に「深い由緒」に因っている。

人形芝居の源流 淡路人形浄瑠璃の魅力

淡路文化協会 会長
正井良徳



「俳句で詠む淡路島百景」(完成版)の刊行に関われたことは大きな喜びであり、淡路県民局ならびにご協力をいただいた方々に心よりお礼申し上げます。この冊子が、島民はもとより島を訪れる人びとにとって、淡路島に理解と親しみを持って頂く縁となれば幸いです。素晴らしい景観に目を慰め、御食国淡路の食材に舌を喜ばせ、歴史・文化に触れてこころ癒され、淡路島を豊かに体感して欲しいと願っております。

淡路島が世界に誇る伝統文化である淡路人形浄瑠璃は、約五百年前、西宮のくぐつ師百太夫が三原郡三條村に来て人形操りを伝えたのが始まりといわれ、その子の引田源之丞は、淡路で最初の人形遣いです。そのころは「戎舞」「三番叟」など神事芸能でした。

今のような浄瑠璃と三味線に合わせて人形芝居が行われるようになったのは、江戸時代の始め頃からです。上方から新しい浄瑠璃をいち早く取り入れ、十八世紀前半には、四十以上の人

形座が全国各地を巡業しました。こうして浄瑠璃文化は全国に伝わり、各地に淡路系人形芝居が根付きました。文楽の始祖植村文楽軒も淡路島出身で、十九世紀初頭大阪へ出て人形芝居を始めたのでした。

淡路人形は、神事色を色濃く残しながら、早替わりなどケレン味に富んだ演出が得意で、大きい人形がダイナミックに動く時代物の演技が観客の人気を集めました。中央では早くに廃絶した演目を長く伝承してきたことも特色です。通し芝居を朝から晩まで楽しんだことで「芝居は朝から、弁当は宵から」という言葉が残っています。

人びとに親しまれた人形浄瑠璃も、昭和三十〜四十年代にかけて急速に姿を消し、現在活動しているのは、吉田伝次郎座を引き継ぐ「淡路人形座」です。専用館で常設公演をしながら後継者を育成し、国内はもちろん外国へも出向いて芝居をして、そのすばらしさを世界中の人びとに示しています。

淡路島百景……………27

事代主神社 水かけ祭り

水浴びせられたる神輿練りに練る

みこし

浜野美代子 兵庫県淡路市

淡路島百景……………28

仮屋漁港

酒蔵の黒塀涼し蟹の路地

あま

制野和子 神奈川県大和市

選者講評 稲山忠利

28号線の海側に茶色の杉玉を吊った千年一酒造がある。その酒蔵の黒塀に沿って海へ出るとそこが仮屋漁港だ。ようずまじ(夕方の南風)が海から黒塀の路地を吹き抜ける頃はひとしお涼しく感じられる。



景観解説●出入りする船、飛来する海鳥、忙しく働く人々。競りともなれば、冷蔵冷凍車が次々と参集し、札入れの熱狂が始まる。ここは、まるで「動画景観」である。

選者講評 大星たかし

9月の第2日曜日に行われる水かけ祭。町内を練り歩く神輿に沿道の人が水をかける。「水浴びせ」「練りに練る」の描写によって、豪快に飛ぶ水と勢い付いて荒れる神輿が目につく。

撮影/西橋 弘(神戸市)



景観解説●祭りは、過去・現在・未来と続く「型の文化」である。男達は、様子を頑なに護る。不断に繋がる「脈略の景」である。

淡路島百景……………29

パルシエ香りの館

娘にも買ふ匂ひ袋やハーブ園

小谷恵美子 兵庫県洲本市

淡路島百景……………30

東山寺

山寺の紅葉明りに写経せる

武田順子 兵庫県淡路市

選者講評 大星たかし

色鮮やかな紅葉で知られる尼寺。国指定文化財の薬師如来、十二神将でも有名。この匂の生命は「紅葉明り」。これによって、山寺の静かなたたずまいと一心不乱に写経する人の姿が読み手の眼前に浮かび上がる。

撮影／村上利明(南あわじ市)



景観解説 ●淡路島北部と中部の境には、古木～志筑の衝上断層がある。ここは衝き上がった地に在る古刹、孤高の尼寺。奉納されたたくさんの「赤い織」が、人々が寄せる厚い信仰を物語る。

選者講評 三根香南

地場産業である線香づくりが盛んな旧一宮町にある香りのテーマパーク。淡路島の香のルーツは古い。この館には体験教室もあり、お土産品も実に多い。匂い袋の季題選びも女性ならではのものである。



景観解説 ●景観を評価するには、カメラを構えてみるとよい。興奮めな看板など景観阻害要因があると、なかなかシャッターを押せないものだ。ここは、どのアングルも良い「全方位景観」である。

淡路島百景…………… 31

東山寺山系の山桜

花を見し夜は島の星仰ぐ旅

辰巳葉流 石川畠白山市

淡路島百景…………… 32

御井の清水

まろやかな神代の泉含みけり

北嶋由美子 東京都大田区

選者講評 鈴木貞雄

御井(おい)の清水は、『古事記』に記載されているご料水「淡道島の寒泉(しみず)」だと言われている。この名水を作者自身も口に含んで、そのまろやかさを賞味したのである。



景観解説 ● 国道28号から、急峻な坂道を徒歩30分でたどり着く。昔日、汲み出して天皇のもとへ届けるのは、さぞ難儀なことであったであろう。今も、近在人達の手で敬われ、大切に管理されている。

選者講評 大久保白村

淡路島の旅を満喫した喜びが17文字に溢れている。由緒ある東山寺山系の山桜を堪能した作者はその夜は島に泊り島の星を夜遅くまで仰ぎ見て旅愁を深めたのである。

撮影／石上康敬(淡路市)



景観解説 ● 山桜は、遠景で観ることが多く、花そのものよりも、領域全体の彩としての意味が強いように思う。この景観には、「里の気配」「春の気配」が満ち溢れている。

淡路島百景……………33

円城寺

花に来て御開帳てふ円城寺

中小路礼三 兵庫県洲本市

淡路島百景……………34

あわじ花の歳時記園

紫陽花や丘よりはるか播磨灘

山口美代子 兵庫県南あわじ市

選者講評 中谷のぶ

あわじ花の歳時記園には3500株ほどの紫陽花が植えられている。たまたま作者が行った時は紫陽花は盛りの頃を過ぎていたが、広々とした丘に立ち、はるか眺める播磨灘を折からの風に吹かれ乍ら感慨深く詠んだ秀句である。



景観解説 ●荒地を居心地の良い自然に設えた工夫と努力の結晶である。旧棚田、やむなく撤退した農家の悔しさを晴らした「連歌の景」である。

選者講評 稲山忠利

味地草には境内に桜の木多しとあるから随分古くから桜の名所であり古刹であったと見える。花の様子を見に来てたまたま御開帳の聖観音二尊にお詣りできたよろこびうれしさが句柄からひしひしと伝わってくる。



景観解説 ●「見え隠れの景」である。建物の全体を見せずに部分だけを見せる。見えない箇所を連想させたり距離感を錯覚させて、空間に深みを持たせる。

淡路島百景…………… 35

淡路七福神 八淨寺

高野向く朱の宝塔や秋高し

稲室博子 兵庫県淡路市

淡路島百景…………… 36

多賀の浜

掌を合はす多賀の浜辺の大夕焼

太田邦子 東京都目黒区

選者講評 鈴木貞雄

多賀の浜には遠浅の海と美しい砂浜が広がり、播磨灘に沈む夕日がすばらしい。ある日、作者は、灘全体を染める夕焼に出会い、その神秘的な美しさに思わず手を合わせていたのである。

撮影／石上康敬(淡路市)



景観解説●縁辺の出入り、伸び出る防波堤が奥行きに仕切りを入れている。わずかな開口部が空間の連続を暗示し、奥行きを深さを増幅する。夕景の空と海の小波、釣り人のシルエットが、「静謐の佇まい」を演出している。

選者講評 高田非路

「八淨寺」は淡路真言宗の名刹であり、七福神巡りに名高い。その伽藍の中の「宝塔」が、高野山の方位へ向いて建立されていると言うのである。檀家の人々の信仰の篤さが慕われ、「秋高し」がその美を称える。



景観解説●この方向からの建物配置は「天地人」になっている。門と宝塔と拝殿の緊張感あるバランスが視線を引きつける。宝塔は文句なしの「アイストップ」である。

淡路島百景…………… 37

兵庫県立佐野運動公園

潮風を味方に汗の球児かな

浦羅由美
兵庫県神戸市西区

淡路島百景…………… 38

伊弉諾神宮と夫婦クス

春祭り野面ひびかせ地車^だす^しむ

赤井きよの
兵庫県神戸市須磨区

選者講評 鈴木貞雄

伊弉諾(いざなぎ)神宮は、淡路国一の宮として知られる大社である。その春祭には近隣の人々が大勢集まり、地車が曳き回される。地車の音が春野に響いてゆく様子が「野面ひびかせ」によく表現されている。



景観解説 ●子どもたちは、年に一度の「お祭り」とおして、大人達とふれ合う。皆で力を合わせる楽しさを体験して、地域の宝物は育っていく。

選者講評 安原 葉

全国規模の大会などが開催できる野球場やサッカー場などがそろっている佐野運動公園は、海辺でいつも快い潮風が吹く。その潮風を味方に汗を流しながら練習に励み、試合を進める球児たちの姿と情景の句である。



景観解説 ●土と芝生の広々とした空間の景。ここは、グラウンドという「原っぱ」である。愛される理由は、景観的に「うるさいモノがない」から。それが、人々を快適にする。

淡路島百景……………39

淡路文化会館 水仙の丘

谷ひとつ染めあげてあり黄水仙

中村以和子 兵庫県洲本市

淡路島百景……………40

淡路市立香りの公園

金木犀香る公園朝日濃し

奥井とも子 兵庫県淡路市

選者講評 高田非路

香りの公園は「淡路文化会館」とともに、一山の頂きを均して建立されているが、整った地形の各所に種々の花木香木が植えられ、「香り豊かな公園」に於ける文化の育成を目標としている。恵まれた豊かな環境を詠んだ一句である。



景観解説●園路にはハーブ花壇、白い小屋が立つ。入り口には足元の水盆と背高なコニファー。ござっぱりした立体公園である。駐車場を共有する淡路文化会館との「シークエンス」を感じる。

選者講評 三根香南

水仙は花の少ない厳寒にあって、素朴な姿でひととき芳香を放つ。それが黄色であればなおのこと心温まる。まばゆいばかりの島の日差しに人は癒しの空間を得るのである。

撮影／井上善人(淡路市)



景観解説●黄色は「メランコリー」な感情を呼び起こす。この色が身の回り、あまり見かけないはその故だ。黄色の氾濫するこの丘で、人々は「非日常」を楽しむのかもしれない。

淡路島百景……………41

番城が丘に甦る津名高等学校

丘の上の白き学舎風光る

脇野信子 兵庫県淡路市

淡路島百景……………42

静の里公園

一人静二人静も墓の前

清水みち 兵庫県洲本市

選者講評 稲畑汀子

静御前の墓地である。その墓前に可憐な花、一人静、二人静が群生しているのであろう。花の名も相応しく、静の里公園と聞くだけでも訪ねたくなる。歴史を繙きつつ墓前に詣るのも淡路島を訪ねるよすがとしたい。



景観解説●小さい公園ながら、悲運の恋に生きた静御前を愛おしむ地元住民の想いにつくらせた公園である。池に張り出したウッドデッキも園内にあり、「舞の舞台」のようにになっている。

選者講評 大星たかし

津名高等学校は、平成17年4月に町なかからこの丘に移転した。この句は学舎の位置と外観をとらえて単純明快。季語が白晝の美しさを際立たせ、明るく学ぶ生徒の姿をも匂わせる。



景観解説●カリオンの塔が、同窓人の「帰巢意識」を掻き立てる。校舎は五角形状の平面配置で、囲まれたパティオは、学年を超えて繋がる共有空間である。構造に全校一体を画した工夫が窺える。

淡路島百景……………43

メガワットソーラー発電施設

並びたる発電パネル雲の峰

平松文子 兵庫県淡路市

淡路島百景……………44

しづかホール

舞扇象るホール雲の峰

丸岡和佐子 兵庫県淡路市

選者講評 正井良徳

志筑には白拍子静御前の墓所がある。静の舞扇をイメージしてデザインされた音楽専用のしづかホール。シドニーのオペラハウスを連想させるユニークな外観に、雲の峰がよく似合う。



景観解説 ●建物外郭線の優雅さ、襲の有る表面形状、光沢のある材質感、ノーダウトな「ランドマーク」である。内部設備も最高水準だとか。使ってみて初めて、この景観の正しい評価ができるのかもしれない。

選者講評 高田非路

標題の施設は、太陽光を利用し、巨大な電力を得るための設備として、淡路市生穂新島に誕生した。温暖で日照時間の長い場所の特性を捉えたのである。「雲の峰」の一語が生きて働く。



景観解説 ●実用的な施設の景観はともすれば単調なもの。この施設も地上で見ると正直なところ味気ない。しかし、雲雀となって高く舞い上がりそこから見下ろす景観は特上、人の智の結晶は美し力強い。

淡路島百景……………45

伊勢の森神社 梯子獅子

綱渡る梯子獅子へと花吹雪

平松文子 兵庫県淡路市

淡路島百景……………46

淡路ワールドパーク ONOKORO

春の海空とつながる観覧車

入谷俊輔 兵庫県南あわじ市

選者講評 中谷のふ

春の暖い一日大阪湾を望むテーマパーク淡路ワールドパークの巨大な観覧車に乗って見た景色。素直に海と空が一つにつながる大きな景をとらえ無駄なことは言わず観覧車と下五にしてみた光景が見事に伝わってくる一句である。

撮影／谷 和樹(淡路市)



景観解説●象徴は観覧車。少しのスリル、ちょっとした隠れ場、鳥の気分。「めまい・物語・発見」の“遊び三要素”を過激に流れずに備えている。家族の笑顔を引き出す「穏やか空間」である。

選者講評 成川雅夫

伊勢の森神社では毎年4月に春祭りが行われている。境内に於て獅子舞を披露した後、組んだ梯子の間に張られた綱の上で空中芸を演じながら獅子が渡っていくのが梯子獅子である。古い歴史を持つ大変に珍しい行事である。



景観解説●「梯子獅子」は、意外性のある景観を呈する。「非日常の時間と空間」が共同体の生活シンボルとなり、芸能を通じてお互いの存在を確認することになる。

淡路島百景……………47

大町地区の田園景観

米どころ日毎明るさ増す稲穂

大歳晴美
兵庫県淡路市

淡路島百景……………48

岩上神社を中心とした巨石信仰

巨石こそ御神体なれ天高し

中尾俱子
兵庫県淡路市

選者講評 稲畑汀子

巨石を信仰の対象として崇める人々。その石は見るから立派な美しい石であろう。見ているだけで心が洗われ改る。自然豊かな淡路島の一劃に解け込んだこの巨石を訪う人も増えて行くであろう。一度は行ってみたい。



景観解説●巨石の形態、そのスケールに私たちは圧倒される。「何故ここに、どうして出来た」地球の営みは複雑である。本殿の特異な建築技法と相俟って、ここは「神のすみか」であると感じさせる。

選者講評 三根香南

実り田を明るいと詠む作者は、自らが土に生き、稲作に携わっているように思える。

「日毎明るさ増す稲穂」からは農に対する敬意と愛情と自負心の表れが読み取れる。御食国、米どころの賛歌と受け止めた。



景観解説●水田は季節を映す地模様。農閑期から農繁期にかけて、地表面の材質が異なってくる。地・水・苗・稲・穂と漸変する。「空模様と地模様の共演の景」である。

国生みの神話と御食国

淡路地方史研究会

顧問 武田信一



天の神より、「下界の海中に、しっかりとした陸地を作るように」と命ぜられた男神のイザナギと女神のイザナミは、天の浮橋うきはしに立ち、天の神より与えられた天の沼矛ぬぼこという槍のようなもので、海中をかき回した。

矛を海から引き上げると、矛先から滴り落ちた雫が固まって「おのころ島」ができた。二柱ふたはしらの神は、その島に上陸し、夫婦となつて次々と島を生んでいく。このとき、一番最初に生んだ完全な島が「淡路島」であつたと、『古事記』は記している。

この「国生み神話」のルーツは、淡路島の海辺に住み、漁業や製塩・海運などに従事していた海人あまたちが語り伝えていた素朴な「島生み」の話であつた。

瀬戸内海の東の端にある淡路島は、天皇家を中心とした大和政権にとつては交通上また軍事上きわめて重要な島であつた。そのために大和政権は、逸早く淡路島の海人を強力な支配下におくことになる。大和政権に仕えるようになった淡路の海人は、天皇が召上

がる食物を貢納するとともに天皇の側近く仕えて、天皇の護衛や人や物の運送などに従事したりする。『日本書記』によると、四世紀末から五世紀ごろの天皇が、再々淡路島へ狩猟に来られているが、これは淡路島の支配をより強化するためだと考えられている。

このような中で、淡路の海人たちが語り伝えていた「島生み」の話が天皇家に伝わる。天皇家は、これを日本列島を生むという壮大な「国生み」の話につくりかえたのであろう。「おのころ島」の伝承地が淡路近辺に多いこと。淡路島が最初に生まれた立派な島であること。イザナギが姿を隠したのが淡路の伊弉諾神宮であるといわれてきたことなどが、そのことをよく示している。

『万葉集』には、淡路を「御食国」と詠んだ歌があるが、淡路は天皇が召上がる食物、即ち御食みけを貢納する国であつたからである。

なお、平成二十八年に淡路島は、『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島 淡路」く古代国家を支えた海人の営みとして、日本遺産に認定された。